

「第二次富士市子ども・若者育成支援計画（案）」の  
パブリック・コメントに対する意見及び回答

反映結果の項目は、「1 反映する」、「2 既に盛り込み済み」、「3 今後の参考にするもの」、「4 反映できないもの」、「5 その他（案件とは無関係な意見等）」の5区分

No.	意見の内容	市の考え方	反映結果
1	P T A、子ども会、子ども会世話人連絡協議会があるが、1つにしてほしい。やるべき方向性が同じであればあえて区分けする必要がないと考える。また、負担が多いため「P T A、子ども会、子ども会世話人連絡協議会」の役員を引き受けてがいない現実も、市として現実を理解してほしい。	P T A、子ども会、富士市子ども会世話人連絡協議会は、それぞれが任意の団体であり、活動の対象や目的が異なるため、市が団体をまとめることはできませんが、活動に関わる保護者の皆様に負担感があることは認識しております。それぞれの活動が持続可能なものとなるよう負担感の軽減等について、市としても働きかけてまいります。	3 今後の参考にするもの
2	指導者の育成はボランティアではなく、有償で専門家が直接子供に教えるようにしてほしい。ボランティアは専門家ではないし、無償のため子供に対して教えてもらうことに対して、責任を問えない。	本計画における青少年指導者育成とは、子ども会のジュニアリーダーのような地域のお兄さん・お姉さんのような役割をもったリーダーを育成していくことを目指すもので、指導者となる中高生や青年にも成長の機会となるものを想定しています。そのため、専門的で高度な知識・能力を教えるものではなく、異年齢の子どもたちが一緒に体験活動等を行う中で育んでいくものと考えています。	4 反映できないもの
3	「地域社会と家庭、学校等が互いを理解し支え合う、持続可能な連携・協働関係の確立が求められています。」とあるが、基本は地域の人のボランティア活動。本計画でボランティア活動を地域に強要させようと捉えられる表現はいかがなものか。	地域の活動は、子ども・若者の健やかな成長に重要な役割を有しており、行政が提供する事業だけでは賄えない部分を担っています。地域の活動は、地域の皆様の熱意によって支えられておりますが、本計画は地域の活動を強要するものではありません。現状の活動を通じた連携を維持しながら、地域社会と家庭、学校の協力関係が持続可能なものとなるよう努めてまいります。	4 反映できないもの
4	計画(案)の中に「切れ目ない支援を行う」とあります。中高生が悩みや課題を抱えながら、それを保護者や学校(スクールカウンセラー含む)にはなかなか開示、相談を出来ずにいるケースは多く存在します。(心配させたくない、知られたくない、否定されるに決まっている、等、自分を知る人にこそなかなか打ち明けられない) その場合の相談場所として 1. 地理的なハードルを下げる：市内の何処に住んでいても自力でアクセス可能(親の力やお金をかけずに通える場所) 2. 心理的なハードルを下げる：思春期世代が臆することなく訪問可能(完全予約の臨床心理士個室相談にこだわらない、少し緩やかに肩に力を入れず寄れる場所) この二つのハードルをクリアしている相談	子ども達が悩みなどを保護者や学校になかなか開示、相談できない場合があるかと思いますが、その場合、新たな相談場所を設置するのではなく、「地理的なハードル」が低い学校において、「心理的なハードル」を下げて、より相談しやすい状況を作ることが最も重要であると考えます。聴き手としては、日頃より状況を把握しやすい担任教諭の他、専門的な知見を有するスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーや養護教諭などがおり、それぞれ聴き手の人柄・個性・専門性等も考慮しながら子ども達が悩みに応じて相談者を選択することも可能です。また、子ども達へのアンケートや面談などを通じ、さらには日頃のわずかな変調に気を配ることにより、教員から声かけをし、悩みの解決に繋げることも重要であり今後も鋭意取	3 今後の参考にするもの

	<p>施設または相談方法が、富士市にはどれだけ在りますか？教育プラザ、フィランセ等の公共施設内の相談室以外に、相談場所・聴き手の確保に関する具体例や策定案があれば、聞かせてください。各学区内に1拠点程度の相談場所が、放課後や土日にドアを開けて受け入れてくれるような体制が整う街であってほしいと願います。子ども・若者のための相談機関マップの内容も期待しています。</p>	<p>り組んでまいります。 併せて、気軽に電話やメールで相談できる「ほっとテレフォン・ふじ」の利用を促進するとともに、若者相談窓口「ココ☆カラ」や「ステップスクール・ふじ」等が更に利用しやすくなるよう学校との協力体制を強化するなど、関係機関と連携した相談体制と支援ネットワークの充実に努め、「切れ目ない支援」が実現できるよう努めてまいります。</p>	
5	<p>子ども・若者施策展開の基本的な柱の中に「子ども・若者の自己形成への支援」とあります。 キャリア教育推進として自己理解、自己管理能力育成が含まれていますが、学校内での特別活動等としてこれを行う場合、何か枠組みとなるようなタイトルメニュー（選択肢？）があり、その中から学校長または担当教諭が選択するのでしょうか？自己形成支援という幅広く奥も深いジャンルだからこそ、毎回何にフォーカスすべきかを熟考して講師を選び、内容を吟味する必要があると考えます。学校の取り組みとして行うのなら、主観や過去例にとらわれずに判断できる指標（資料）の投入も大切であると考えます。 それは家庭教育力の向上に関する取り組みにおいても同じことが言えると思います。 毎年なんとなく、同じような内容（例えばスマホの使い方、薬物や性教育の事）の講演を繰り返すのでは、参加者増加も期待できません。新入学生の保護者講演会についても、講演会参加者の満足度を軸にして今後を考えるのではなく、そこに参加していない多くの保護者を含めた中で、次への目標設定をすべきと考えます。取り組み区分のほとんどを占める「継続」の項目の具体的な内容が、より良質で活用度の上がるものになっていくことを心から期待します。</p>	<p>キャリア教育につきましては、各学校がそれぞれ工夫を凝らしながら、職場体験や就業体験、様々な職種の職業講話などを実施しておりますが、各学校にて取組の方向性を決める際には、まず子どもの実態を把握した上で、その時々の実状に合わせ、多様化、複雑化する社会に対応ができるよう努めてまいります。 また、家庭教育力に関する取組は、講演会等を含め、子どもの成長過程や時代の変化、ニーズに合わせて、学校だけでなく、関係機関との連携、協力を深めながら取り組む必要があり、今後も、行事参加者だけでなく、広く保護者全体を見据え、家庭教育力の向上に繋がるよう支援してまいります。</p>	3 今後の参考にするもの
6	<p>市長にとって都合の悪い市民の投稿には論点をずらし返信し、再度返信を促すと「再三再四真摯に対応した」と一方的に市民の声をブロックする。そんな市長の態度では「子どもの権利条例」と同様、「子ども・若者育成支援計画」も市長や行政の自己満足、時に税金の無駄遣いだと思っております。</p>	<p>市及び教育委員会は、市民からの投稿や意見等に対して、常に適切かつ適正に対応しております。今後につきましても、ご指摘のようにならないようしっかりと取り組んでまいります。</p>	5 その他（案件とは無関係な意見等）
7	<p>「1歳までは子どもは親が家庭でみるもの」、「乳児の病児保育は不要である」。これは市の職員から聞いた言葉です。このような今の市政ではこの街で若者が住み、ここで子育てをしようとは思わないでしょうね。</p>	<p>1歳未満児の保育環境の整備、乳児の病児保育などは子どもを育てる家庭にとって不可欠なものであると考えます。本市に若者が住み続け、子育てしようと思ってもらえるよう本計画を推進してまいります。</p>	3 今後の参考にするもの